

ギャラリー けいぶん社 / アンフェール

スタッフの感性で成り立つ
アートな空間。

高野から東大路通り沿いを北に進み、叡山電車一乗寺駅のある曼珠院道を東に曲がると、本屋好きの間で全国的に名の知れたユニークな本屋「けいぶん社」がある。

ここではイラストや写真集などの芸術系から人文系、詩歌、絵本、コミックなど多彩な分野の書籍が売られているが、どんな小さな町の本屋にも置いてあるようなメジャーな本は少なく、逆に大型書店に行っても手に入らないような個性あふれる本が多い。そんな本が小物や雑貨にまじって雰囲気よく置かれていて、まるで不思議の国にでも来たかのような気



▲本だけでなく、CDや小物も売られている。もちろん国内外を問わない品揃え。
▲アンティークな雑貨が並ぶアンフェール。絵ハガキが充実している。

にさせる。また、店の奥に併設されている「アンフェール」では輸入雑貨や絵ハガキなどが売られている。こちらは歩くたびに音がする、老朽化した床にも注目したい。

お店に来る人は20代から年配の方までさまざま。週末には全国からお客さんがやってくるという。数年前から始めたWeb上でのオンラインショッピングもたくさんの人が利用しているようだ。

「本というのはインターネットのように情報を得るためだけのものではなく、家に持ち帰ってインテリアとして飾ることもできる。そういう部分をクローズアップしている意味もあって、装丁をきっちり見せたり雑貨と並列して並べたりして、雰囲気を重視したディスプレイをしています」と話すのは店長の堀部さん。この本は一般書店のようにただ各分野ごとに分類して本棚に入れてあるのではなく、多くが寝かされた状態で置いてある。表紙を見て楽しむことができるのだ。そして店に並ぶ本をどのように



▼本というよりインテリアの一部のような置き方をしている。本自体の魅力が伝わってくる。



営業時間：10:00～22:30
(本屋・アンフェールとも)
※元旦を除き年中無休
ホームページ：
<http://www.keibunsha-books.com/>



決めているのかも聞いてみた。

「新刊だから、ベストセラー本だから置くというシステムにはしていません。だからといって変わった本だから選ぶというわけでもないです。スタッフそれぞれの感性やこだわりによって一冊一冊選んでいるんですよ。もう忘れられたような、出版社の倉庫で眠っているような本をあえて選んできて、今の新刊などと並べることによって当時の作家やデザイナーの再評価につながるような、そんなセレクトをしています」

自転車を走らせるもよし。叡山電車にカタコト揺られて向かうのもよし。あなたもぜひ自分の感性を刺激されに行ってみよう。(天然水)

はみだし
すてーじ ⇒...

(工・院 ヤッシー)
(そのまま返してみるとどうい返事が返ってくるのか知りたい編)